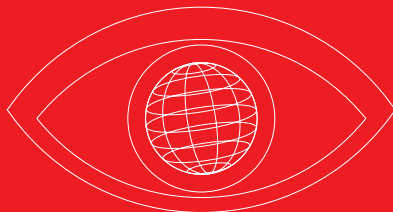


April 2004



Pick UP INTERNET MOVEMENT

ニュースな数字から見える4月のインターネット

15分

ゲームをプレイする1時間ごとの推奨休憩時間

エヌ・シー・ジャパン、ガマニアデジタルエンターテインメント、ガンホー・オンライン・エンターテインメント、ゲームオン、NHN Japanのオンラインゲーム提供5社は、ゲームプレイに関する「健康ガイドライン」で合意し、各社ともユーザーに注意を促している。これには「長時間ゲームをするときには1時間ごとに15分ほど休憩しましょう」といった内容が盛り込まれている。ネットカフェで食事を取らずに何日もプレイし続けて亡くなった人がいるというニュースを外国では見るが……。たばこ同様に「あなたの健康を損なうおそれがありますのでプレイのしすぎに注意しましょう」というところか？

61%

2003年のインターネット人口普及率

総務省は4月14日、2003年末の「通信利用動向調査」の結果(概要)を発表した。この調査によれば、インターネット利用者数は7730万人(前年比11%増)で、人口普及率は60.6%(同6.1ポイント増)と初めて60%を突破した。また、世帯におけるPCからのインターネット接続方法は、ブロードバンド回線が47.8%(同18.2ポイント増)と半数近くに増加した。一方で、年収や性別による格差は縮小傾向にあるが、デジタルデバイドは依然存在していると指摘。年齢別では、13歳から39歳までの範囲での利用率が90%を超えている。子供の頃にインターネットがあったら、いまとは違う人生だったと考えたことはない？

2400億円

2008年度のネット決済サービス市場規模予想

ネットアンドセキュリティ総研は4月14日、ネット決済サービスに関する調査結果を発表した。それによると、2003年度のネット決済サービスの市場規模は680億円で、これが2008年度には2,400億円へと3.5倍に増加すると推定している。今年2月末時点でのECサイト数は7万5,000サイトあり、そのうち決済代行サービスを導入しているのは約15%だ。また、昨年度のネット決済手段ではクレジットカードが560億円と全体の82%も占め、事実上標準と言える。次に多かったネットバンキングサービスは約7%でしかない。これだけの大差をネットバンクはどのようにしてキャッチアップするというのか……。

100年間

ドメイン名を維持管理する保証期間

米国の大手レジストラであるネットワークソリューションズは3月24日、ドメイン名をなんと100年間も管理して登録が失効されないように保証するサービスを始めた。レジストリに対して最大限の年数を契約した後に、100年経つまで自動的に契約を延長していく形を採る。1年あたりのサービス利用料金は9.99ドル(約1,000円)と、普通の1年契約よりも70%安い。ただし、一括で100年分である999ドル(約10万円)を支払わなくてはならない。しかも、契約後に途中でほかのレジストラへ移行したときには、ドメイン名の維持契約は失効し、返金もされない。なんといっても100年先。あなたは使ってみますか？

検索だけではない、メールという新たな戦略を展開

Googleが1Gバイトの保存容量を持つウェブメールサービス「Gmail」を発表

Gmail <http://gmail.google.com/>

Media

すでにニュースサイトなどで報じられているように、4月1日にGoogleは1Gバイトの保存容量を持つウェブメールサービス「Gmail」を発表した。発表日が4月1日ということもあり、「エイプリルフールのジョークでは？」という憶測も一部ではあったようだが、すでにベータ版が開始され、一部の評価ユーザーの間で利用されている。

編集部ではこのGmailを評価する機会を得たので、現在報じられている情報と併せて、Gmailの機能についてレポートする。

検索・容量・スピードが違う！

Googleの発表によれば、このサービスで強調されているのは「検索」「容量」「スピード」の3点である。

Googleが提供するサービスのすべての基本は「検索」にある。当然、Gmailも「検索」は大きな機能である。サーチボックスはGmailの画面の上部にあり、ここに検索語を入れて「Search Mail」ボタンを押せば、Gmail内にあるすべてのメール（ただし、SpamとTrashに分類されたものは除く）を検索できる。オプションも用意されていて、検索対象を絞り込める。残念ながらまだ日本語には対応していない。

次に容量だが、言わずもがなのことだが、1Gバイトという容量はウェブメールサービスではいままでにないし、ISPでもそこまでの容量を提供しているメールサービスはないだろう。この容量は次の「スピード」にも関係してくる。

Gmailではカンパセーション（会話）という機能によって、1つの話題のメールのやり取りをひとまとめで表示してくれる。たとえば、あるメールを2人の友人に送った場合、最初の1人がリプライメールを出し、そのメールに対し、もう1人の友人がリプライを出したとすると、それぞれのメールが1つの固まりとして表示されるのだ。このようにわざわざメールをフィルターのようなものを用意して分類しなくても、自動的にメールを分

類してくれる機能が備わっている。1Gバイトの容量があったとしても、検索や自動的な分類機能によって、大量の情報から目的のメールを見つけやすくしているわけだ。

このほかスパムメールの除去機能やフィルター機能も用意されている。

プライバシーの問題も議論に

Gmailで論争を呼んでいるのが、広告機能である。これはアドセンスと同じように、メールの本文が表示された際に、そのメールの内容を解釈して、関連した広告を画面の右側に表示するというものである。広告と同様に、Googleのインデックスから関連ページへのリンクも表示する。広告や関連ページへのリンクも場合によってはユーザーには便利なものではあるが、メール本文を解釈して広告を表示するのはプライバシ

ーの侵害ではないかという指摘もある。

いずれにせよ、現時点では受信した日本語メールの表示にはいくぶん対応しているものの、それ以外に関しては日本語には未対応である。評価を続けて新たにレポートしたいと考えているが、1Gバイトの容量とGoogleの強力な検索機能が備わったメールサービスというだけで、使う価値があるのではないだろうか。そもそもメールでのやり取りが基本になり、大量のメッセージの中から必要なメールを探す場面が増えている。その要望にGmailは少なくとも応えてくれるサービスだと期待している。

ある調査によれば、インターネットの利用者がもっとも時間を使うのはメールで、次いで検索なのだそう。そう考えるとこの新サービスがGoogleのキラーサービスになるのは間違いのないだろう。（編集部）



カンパセーション機能の例。ある1つの話題のメールに対して、2人の人間がやり取りしているのが掲示板のスレッドのように表示される。



スポンサーリンク（アドワーズ広告）と関連ページの表示。検索サイトとしてのGoogleと同様に右側端に表示される。

携帯電話の展示会 CTIA Wireless 2004 が米国で開催される 活況を取り戻した米国の携帯電話業界 データサービスの本格的普及へ景気回復の追い風か

米国携帯電話業界最大の展示会「CTIA Wireless 2004」が3月22～24日に、アトランタにおいて開催された。イラク戦争の暗雲が立ち込めていた昨年と比べると、今年はブースの数も入場者も大幅に増えて、会場は盛況であった。2003年に次世代高速ネットワーク(EV-DOとEDGE)が始動して、加入者の伸びも回復(図1参照)、ARPU(加入者当たり月額売り上げ)も順調に伸びる(図2参照)など、携帯電話業界は明るい話題に事欠かない。このため、緊縮モードを脱して設備投資を再開した事業者のトップの姿がベンダーのブースに戻ってきたことも、活況の原因である。

「目玉」を欠いた基調講演

しかし、昨年・一昨年の最大の話題であったWiFi(無線LAN)は、有料サービスが一向に普及せずに大幅にトーンダウン。また高性能の新端末や各種データサービスも昨年ではほぼ出そろい、今年はその延長にとどまった。一方、第四世代携帯などの新技術はまだ将来の話に過ぎず、大型の話題はあまり見当たらなかった。

基調講演では、FCCのマイケル・パウエル委員長(写真①)、サン・マイクロシス

テムズのスコット・マクニリーCEO(写真②)、シスコ・システムズのジョン・チェンバースCEO(写真③)、最近モトローラ会長に就任したばかりのエド・ザンダー氏(写真④)といった「常連」が登場。しかし、いずれもあまり代わり映えのしない話が多く、聴衆の反応はいま一つであった。

一方、反応のよかったのはやや異色のゲスト2人であった。韓国LGインフォコムの子会社、サムスン電子のジュノ・チョウ社長は、空調や台所のガス栓などを携帯電話でコントロールする「情報家電」を舞台に並べて実演したが、これはこの展示会では初登場(写真⑤)。もう1人はヒップホップ業界の巨匠、ラッセル・シモンズ。携帯電話で音楽がダウンロードできるようになってほしいという希望と同時に、「まず電話は通じなければならぬ」などのやや辛口のコメントも披露した(写真⑥)。

CDMA陣営の元気な展示フロア

米国携帯業界の最近の話題は、シンギュラーによるAT&Tワイヤレスの買収である。米国では、この2社が採用するGSM方式と、ベライゾンワイヤレスおよびスプリントPCSのCDMA方式が並存している

が、昨年はCDMA陣営が加入者獲得競争で圧勝した年であった。

CTIAの展示フロアでも、端末メーカーではCDMAを中心にシェアを伸ばしているサムスンやLGの韓国組と、GSMを中心とするノキアやシーメンスなどの欧州組は対照的な傾向を示していた。奇抜なデザインを前面に押し出すノキアに対し、韓国組は両社とも折りたたみ式の高機能端末を大量に並べたシンプルな展示で、余裕すら感じられた。

インフラベンダーでも、やはりCDMA方式のクアルコムが気を吐いていた。EV-DO方式の機器やアプリケーション、一対多通信が可能なQチャット(音声)やMediaFLO(テレビ会議)などの展示に注目が集まっていた。新しいインフラ技術としては、オールIPモバイルブロードバンドのフラリオンのブースがにぎやかであった。

「まだまだこれから」の 米国携帯電話業界

メインの展示会の前日に開催された「モバイルエンターテインメントサミット」では、携帯コンテンツサービスについて活発な

図1 米国携帯電話加入者推移

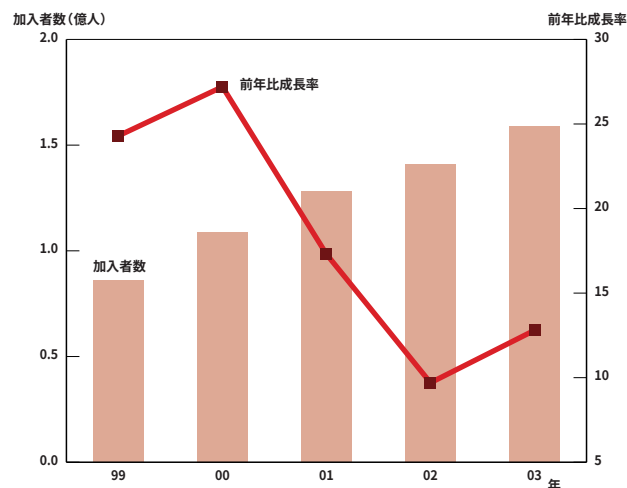
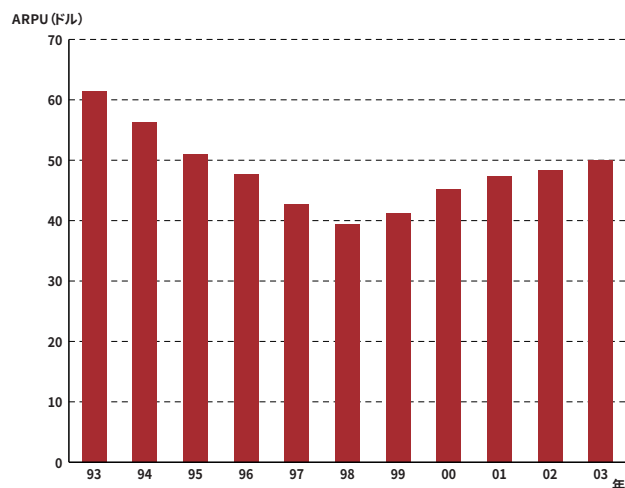


図2 ARPU(加入者当たりの月額売り上げ)推移



出典: Cellular Telecommunications and Internet Association



①CTIAの新CEOスティーブ・ラージェント氏と対談するマイケル・パウエルFCC委員長。②企業向けアプリケーションの実演をする、サン・マイクロシステムズのスコット・マクニリーCEO。③オールIP統合ネットワーク構想を語る、シスコ・システムズのジョン・チェンバースCEO。④サン・マイクロシステムズのCOOからモトローラCEOに転じたばかりのエド・ザンダー氏。⑤携帯電話で情報家電をコントロールする、LGインフォコムの子ノ・チョウ社長。⑥ヒップホップ界の帝王ラッセル・シモンズ氏は、モバイルエンターテインメントフォーラム米国代表ラルフ・サイモン氏と対談。⑦6大事業者(ベライゾン、シンギュラー、スプリント、ネクステル、Tモバイル、オールテル)とCTIAのスティーブ・ラージェントCEOによるパネルディスカッション。

議論が交わされた(写真⑬)。この業界は、現在ちょうど「先進ユーザー／ニッチ」から「大衆市場」への飛躍をすべき段階を迎えており、今後の動向が注目されている。先進国では携帯電話業界が飽和に達す

る懸念の中、米国は普及率でもアプリケーション面でも遅れているために、景気が回復さえすれば成長基調に戻りやすいともいえる。今回のCTIA展示会は、そんなやや皮肉な米国の現状を反映した、楽観

的な雰囲気でのショーであった。
(海部美知)



⑧ノキアのブースでは、ネックレス型携帯電話のコンセプトを展示。⑨ゲーム機対応端末Ngageをフィーチャーして、ヒップなイメージを強調するノキアのブース。⑩無線を使って多地点間テレビ会議を実現するMedia FLOの実演(クアルコム社ブース)。⑪サムソンはバームOS対応スマートフォンを出展。⑫スプリントのブラウザサービスの1つ、携帯電話でテレビの視聴できる「MobiTV」。⑬モバイルエンターテインメントサミットでは、日本の携帯コンテンツ会社の米国進出も話題になった。左から、インデックス社国際事業部ゼネラルマネージャー渡辺孝弘氏、同社が1月に買収した米モブリス社のブライアン・レビンCEO、同じく1月に買収した仏ハイク社のアクセル・ドレフュスCEO。

BlogPeopleがブログユーザーにアンケート実施 ブログユーザーの6割弱がアフィリエイト プログラムに参加もしくは参加を検討

URL <http://www.blogpeople.net/>

BlogPeople(ブログピープル)は、同サービスを利用しているユーザーに対して、ブログに関するアンケート調査を行った。アンケートは3月17日から3月31日までBlogPeopleサイト上で行われ、1150件の有効回答を得られた。

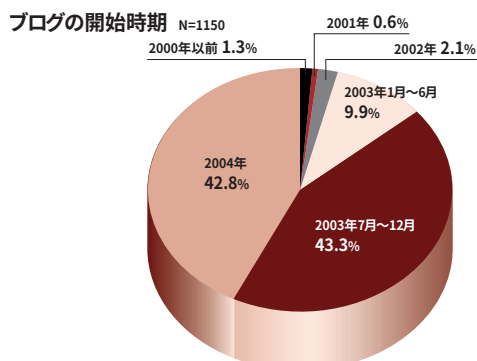
結果によると、2003年の後半からブログ

を開始したユーザー数が急増し、今も伸び続けている。多くのブログユーザーはブログ以外のホームページを持った経験があり、3分の2のユーザーがほぼ毎日ブログを更新している。アフィリエイトプログラム(特集記事の解説を参照)については、57%のユーザーが参加中、または参加を予定

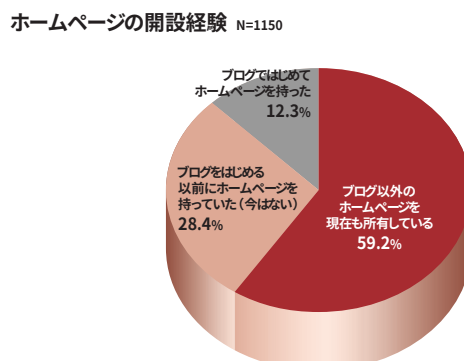
しているということだ。

ブログユーザーの中でも、比較的熱心な、ブログへの熟練度の高い層が対象になっていることを考えても、昨今のブログの盛り上がりを反映した結果となっている。

(編集部)



2003年後半から一気にブログユーザーが増加していることがわかる。

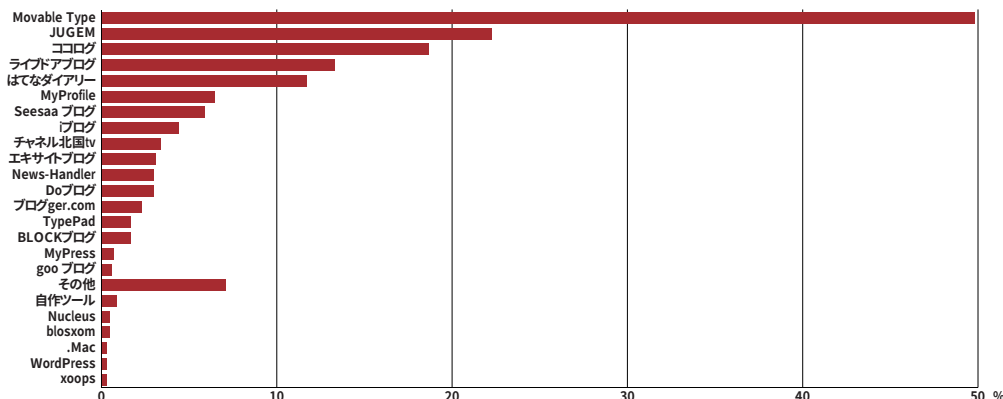


87.6%がブログ以外のホームページを開設した経験がある。

利用サービス (複数選択および自由回答)

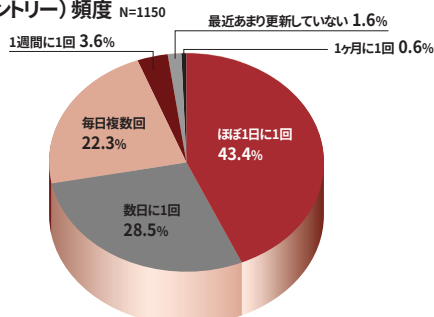
(回答者数1,150、のべ回答件数1,852)

圧倒的にMovable Typeユーザーが多いが、あくまでもBlogPeopleユーザー内の調査結果である。「その他」より上は選択形式、「その他」より下は自由回答の中で回答の多かったもの。



記事更新(エントリー)頻度

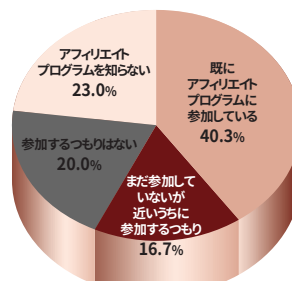
N=1150



3日坊主が多いと言われるブログだが、97.8%が1週間に1回以上更新している。熱心なユーザーが調査対象となっていたことがわかる。

アフィリエイトプログラムの利用

N=1150



アフィリエイトを知っている人だけで計算すると、74%の人が興味を持っていることがわかる。

コンテンツの自由な流通を目指すクリエイティブ・コモンズの新たな動き 電子透かしとしてライセンス情報を埋め込む 『デジタルコモンズ』の開発が明らかに

Copyright

3月3日に日本法に準拠したクリエイティブ・コモンズのライセンスである「iコモンズ・ジャパン」が正式に公開されたが、これに関連してNTTサイバーコミュニケーション総合研究所・サイバーソリューション研究所(以降サイバー研)は、Digital Commons(以降DC)というシステムを開発中であることを3月20日に開催されたクリエイティブ・コモンズのシンポジウムで明らかにした。

クリエイティブ・コモンズは著作権を保持しつつコンテンツを一定の範囲内で複製して再利用できるようにすることを目指す非営利団体で、著作権に関するライセンスの整備を進めている。

サイバー研によるDCシステムは、クリエイターが画像や音楽などのファイルをDCシ

ステムに登録する際に、クリエイティブ・コモンズのライセンスを発行すると同時に、ライセンスや著作権者などの情報を直接ファイルに電子透かしとして埋め込むというもの。DCシステムでは「コンテンツID」と呼ばれるコンテンツIDフォーラムが発行している一元化されたIDでライセンス情報を管理する。コンテンツに埋め込まれているIDを検索すれば、詳細な著作権に関するライセンス情報(クリエイティブ・コモンズライセンスの条項)がわかる仕組みである。

DCシステムは登録されたコンテンツのライセンス情報に関するポータルサイトの役割を持ち、登録コンテンツの検索や派生コンテンツ(二次利用作品)の関係図も表示できる。

インターネットのコンテンツはパッケージとして流通するコンテンツと違い、その利用に関するライセンス情報と別に流通することが多いが、DCを利用していればそのようなコンテンツについても著作権やライセンスの情報を知ることができるだろう。また、クリエイティブ・コモンズのライセンスを採用しているコンテンツの検索も簡単になり、インターネット上のコンテンツの合法的な利用の促進が期待できる。(福島直央)

Digital Commons(予定)

URL <http://digitalcommons.jp/>

クリエイティブ・コモンズ・ジャパン

URL <http://www.creativecommons.jp/>

コンテンツIDフォーラム

URL <http://www.cidf.org/japanese/>

バリューコマースがルックススマート・ジャパンの営業を譲り受け アフィリエイト+ディレクトリー型検索で Eコマース・広告ビジネスを強化

Directory
Search

アフィリエイトサービスプロバイダーの大手バリューコマース [URL01](http://www.valuecommerce.co.jp/) は、広告検索サービスを展開するルックススマート・ジャパン [URL02](http://www.looksmart.co.jp/) (以下「ルックススマート」)の営業を3月26日付で譲り受けたと発表した。譲り受け価格などの詳細は公開されていない。

この営業譲り受けによりバリューコマースは、ルックススマートの31万8000社からなる日本企業のディレクトリーや、それを制作、維持、変更するための技術に関する日本での独占的権利を取得した。ルックススマートの資産は、バリューコマースの100%出資子会社に引き継がれ、ルックススマートのブランドは継続して利用される。

バリューコマースのブライアン・ネルソン氏は、次のように述べている。

「今回の譲り受けは当社の日本におけるインターネット、Eメール、モバイル販売、マーケティングソリューションのメジャープレイヤーとしての地位を確立することを目的としています。今回の譲り受けにより、バリューコマースのEコマースソリューションに、即戦力となるOEMディレクトリーや検索サービスを追加することになります」

パートナー企業でもあるGoogleなどの検索会社との関係に関しては、ルックススマートが行う人手に頼ったディレクトリー型検索は、Googleなどの得意とするロボット検索とは得意分野が異なるため、競合関係にはならないとしている。(加藤さこ)

[URL01](http://www.valuecommerce.co.jp/) <http://www.valuecommerce.co.jp/>

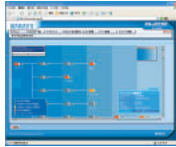
[URL02](http://www.looksmart.co.jp/) <http://www.looksmart.co.jp/>



発表会の模様。左から、バリューコマース代表取締役社長兼最高経営責任者のブライアン・ネルソン氏、新会社の社長兼代表取締役でもあるバリューコマースの創業者兼会長のティム・ウィリアムズ氏、ルックススマート・ジャパン取締役の蜂巣健一氏

彼方のCMSツールALAYAがバージョンアップ プラットフォーム拡大で機能強化

彼方は、コンテンツ管理システムALAYAの最新版リリース4を4月20日にリリースした。Officeとの連携機能の強化、携帯電話、PC、メールマガジンなど複数メディア向けページの同時生成対応、キーワードによる分類の強化に加え、JBoss、Tomcat、PostgreSQLなどのオープンソースのプラットフォームに対応した。ASPサービス版が月額20万円～、インストール型が350万円～の価格は変わらない。



URL <http://www.kanata-jp.com/alaya/>

アシストがCMS製品の新バージョン NOREN 4を発表

アシストは、コンテンツ管理システムNORENの新バージョンを4月末から出荷すると発表した。シンプルな使いやすさはそのままに、複雑な企業形態や大規模サイトにも適用できる柔軟性や拡張性を追加したうえで、J2EE、XML、ウェブサービスなどの業界標準への準拠も進めた。さらに、これまでの最小構成価格1,500万円を、480万円から利用形態に応じて選べる、複数の価格体系に変更した。



URL <http://www.ashisuto.co.jp/>

アクセス解析サービスの忍者TOOLSが 簡易ブログ付きプロフィール機能を追加

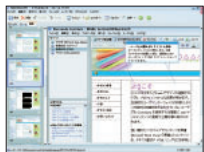
忍者システムズは、ウェブサイトにタグを貼って利用するアクセス解析サービス「忍者TOOLS」に、簡易ブログ機能付きのプロフィールサービス「プロフィール一族の里」を追加した。自己紹介文を簡単に作れるのに加えて、画像付きの日記サイトにもなる。日記にはほかの人がコメントを付けることも可能で、携帯電話からも投稿できる。忍者TOOLSのユーザーならば無料で利用できる。



URL <http://www.shinobi.jp/>

マクロメディアがインタラクティブな デモ作成ツールのRoboDemo 5日本語版を発売

マクロメディアは、プログラミングの知識がなくてもソフトウェアの操作などのデモを作れるウィンドウズ用ツールRoboDemo 5を発売した。操作を記録し、視覚効果やサウンド、文字キャプションを付けたデモをFlashや実行可能形式のファイルにできる。文字入力などのインタラクティブ性も追加でき、eラーニング機能も搭載する。商用版は75,600円、アップグレード版は37,800円。



URL <http://www.macromedia.com/jp/>

インフォマティクスがCMSツールInStranet 4と コールセンター向け支援システムを発売

インフォマティクスは、多次元データベース技術を利用したコンテンツ管理システムの新バージョンInStranet 4と、コールセンター向けの回答支援システムInStranet for Contact Centerを発売した。バージョン管理や分析機能などが強化されており、コールセンターの業務効率化により回答時間短縮や回答率を向上させる。価格はそれぞれ380万円～と1,170万円～。



URL <http://www.informatix.co.jp/>

BlogPeopleがサーバー上でお気に入りの 管理するブックマークサービスを開始

BlogPeopleは、ちょっとメモしておきたいときにブログの記事単位でブックマークとして登録できるサービス「Instant Bookmarker (IB)」を開始した。利用は無料。BlogPeopleのサーバー上に100個までのデータを保存でき、自分のブログで公開するかしないかを設定できる。数時間ごとに記事が更新されたかどうかを確認する機能や、自分がコメントを書いたページの更新をチェックする機能も付いている。



URL <http://www.blogpeople.net/>

GMOホスティングアンドテクノロジーズが アドワーズ広告のデジタルクーポンを無償提供

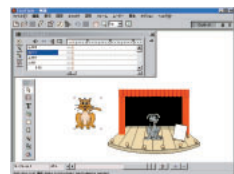
GMOホスティングアンドテクノロジーズは、GMOグループのホスティングサービス「アイル」「ラビットサイト」の利用ユーザーに対して、Googleのキーワード／ターゲット広告サービス「アドワーズ」に利用できるデジタルクーポンを最大5,000円分まで無償提供するサービスを始めた。第1弾として、4月1日～10月1日の間、「Google & iSLE共同企画アクセスUPキャンペーン」が実施される。



URL <http://home.isle.ne.jp/>

アクト・ツーがFlash作成ソフトの最新版 Easy Flash 2.2 Jを発売

アクト・ツーは、同社のウィンドウズ対応Flash作成ソフトの最新版となるEasy Flash 2.2Jを発売した。マクロメディアの「Flash MX」シリーズの圧縮に対応したほか、GIF形式のファイルのインポートや、SVG形式ファイルのインポートとエクスポートができるようになった。パッケージ版は定価10,290円、ダウンロード版は5,800円。当面は同社ウェブサイトからのダウンロード販売を中心とする。



URL <http://www.act2.co.jp/>

ブラウザ上での簡単な操作で Flashによるウェブサイトを作成「NOTA」

ユミルリンクは、ブラウザ上で直接に自由に文字を入力したり画像を貼り付けたりしてウェブページを作ると、アップロードの作業をしなくても、そのままFlashのページとして公開できるソフトウェア「NOTA」の販売を開始した。ISPやレンタルサーバー業者がASPサービスとして提供する形態を想定している。ライセンスは月額15万円程度。



URL <http://www.ymir.co.jp/>

Dreamweaverの拡張として動作する アクセシビリティチェックソフトLIFT

ソシオメディアは、高齢者や障害者などにも利用しやすいウェブサイトの作成を支援するソフト「LIFT」を発売した。マクロメディア Dreamweaverの拡張機能として動作し、ページの制作中に同時進行で問題のあるHTMLをチェックできる。ファイルをまとめてチェックすることも可能。各種アクセシビリティ関連のガイドラインに対応。ウィンドウズ版／Mac版ともに37,800円。



URL <http://www.sociomedia.co.jp/>

ソーシャルネットワーキングサイトの Friend MAPがβ版オープン

アイ・エム・ジェイとファンコミュニケーションズは、ソーシャルネットワーキングサイト「Friend MAP」をβ版として公開した。会員からの紹介がなくても登録できるソーシャルネットワークで、メール、掲示板、サークルなどの機能のほかにブログ形式の日記機能も用意されている。プロフィールや日記、掲示板などの書き込み内容はすべて公開・非公開などを細かく設定できる。利用は無料。



URL <http://www.friendmap.jp/>

松下電器がポータルを運営するデジタルTV用サイト Tナビのサービス事業者が50社を超える

Tナビの専用ウェブサイトが続々と増えて、コンテンツが充実してきた。Tナビは対応デジタルテレビをブロードバンド回線につなげば、無料(一部有料)でテレビ用に作られた専用ウェブサイトにアクセスできる。松下電器が運営するポータルサイトと、各サービス提供事業者が運営するTナビサイトとの連携により提供されており、今年4月2日現在で合計52社が参加、66サービスが提供されている。



URL <http://tnavi.net/>

アバターコミュニティサービスの SayClubをニフティが開始

@niftyは、NeoWiz Japanの運営するアバターチャットSayClubとのサービス連携を開始した。ユーザー登録をすればアバター(キャラクター)を使ったチャットやクラブ、掲示板を利用できるほか、コメントやギャラリー機能付きのホームページサービス「ホームピィ」も利用できる。利用は無料だが、1ポイント1円のSayCashを購入すると、アバター用の服やマジックアイテムを買い取る。



URL <http://www.nifty.com/sayclub/>

インターネット経由で出版から書店売りまで可能な 「まぐまぐ文庫」がサービス開始

まぐまぐ、野村総合研究所、コニカミノルタビジネスソリューションズの3社は、メールマガジンの原稿を書店や店頭で1冊ずつオンデマンド印刷、製本、販売をするサービス「まぐまぐ文庫」を4月5日より共同で開始した。顧客からの注文を受けた後に書店で製本する。80ページ程度の書籍ならば、約40秒で印刷して製本できる。物流にかかる時間や費用が不要になり、1冊200円からと安価に利用できる。



URL <http://www.mag2.com/bunko/>

オンライン書店「bk1」のランチサイトを Sozon.com、IRI-CTSが共同でSEO対策

オンライン書店「bk1」は4月6日、ジェイ・シードが運営するSozon.com、IRIコマース&テクノロジー(IRI-CT)と共同で、ウェブサイトのSEO(検索エンジン最適化)に取り組むと発表した。今回対象となるのは、bk1が3月16日から公開しているサイト提携者向けの機能を搭載したランチサイト「bk1.jp」で、商品情報ページを中心に最適化していく。具体的には、日本の検索エンジンで上位表示を達成させるSozon.comのソフト「SeoSpy」を使い、IRIは技術支援をする。



URL <http://www.bk1.jp/>

マクロミルが専門研究機関 「ネットリサーチ総合研究所」を設立

マクロミルは4月1日、ネットリサーチに関する専門的な研究を手がけるシンクタンクとして「ネットリサーチ総合研究所」を、マクロミルの独立セクションとして設立した。所長には社外よりネットレイティングスの代表取締役社長である萩原雅之氏を招聘した。ネットリサーチ業界の認知と発展に寄与する専門研究機関として、独自の研究や調査、サービス品質基準の策定などを進めていく。



URL <http://www.macromill.com/>

映像配信では、STB料金も合わせて月額2,400円で200タイトル見放題 NTTコミュニケーションズが、3つのサービスを統合した 「NTT Com CoDen 光サービス」を7月から提供

NTTコミュニケーションズは、インターネット接続、IP電話、映像配信の3サービスを統合した「NTT Com CoDen 光サービス」を、7月1日から集合住宅向けに提供開始する。なかでも映像配信サービスは、ハリウッド映画など200タイトルをSTB(セットトップボックス)料金も合わせて月額2,400円、見放題で提供する。

NTT Com CoDen 光サービスは、マンションなどの集合住宅に光ファイバーを引き込み、VDSLタイプ(月額4,500円)やEtherタイプ(月額3,380円)方式により各戸に提供するブロードバンドサービスで、インターネット接続は最大100Mbpsを実現。棟内まで光回線で接続するので、距離による減衰など伝送損失が少なく、快適にインターネットを利用できる。IP電話サービスが

標準でセットされており、同社および提携プロバイダー(約100社)のIP電話同士で無料通話が行えるほか、国内一般加入電話へ全国一律3分8円、国内携帯電話へ全国一律1分18円で通話でき、国際通話も格安で行える。

また、映像配信サービスは、同社がすでに構築運用している日本最大規模の映像配信システムにより、洋画、邦画、ニュース、アニメ、カラオケなどの映像コンテンツを、高画質画面(MPEG-2)で提供するもの。テレビとSTBを利用するので、リモコンで簡単に操作できる。インデックスグループ、バンダイチャンネルなど有力コンテンツプロバイダーと提携しており、ハリウッド映画など2000タイトル以上の映像コンテンツを、2泊3日など一定期間内に何度でも楽しむこと



URL: <http://www.ntt.com/>

が可能だ。さらにSTBを利用したストリーミング映像配信では、世界初の定額見放題サービスを用意し、基本料金で200本以上の映画タイトルから何度でも自由に選ぶことができる。今後、NTT東西の「Bフレッツ」を利用するOCNユーザーへの提供も予定している。

root権限を渡すほか、目的に応じて選べる2種類のサーバーを用意 キッズウェイが、自由にサーバーのカスタマイズが可能な 専用サーバーレンタルサービスの提供を開始

iDCを運営するキッズウェイが、目的に応じて選べる2種類の専用サーバーレンタルサービスの提供を開始した。エンジニアやスペシャリスト向けのDELL PowerEdge 750ベースと、誰にでも扱えるNEC EXPRESS5800/MWベースの2種類で、いずれもroot権限まで渡されるので、スキルやニーズに応じてサーバーを自由にカスタマイズできるのが特徴だ。また、ネットワークおよびネットワーク機器が冗長構成となっており、万が一ネットワーク障害が起きた場合にもデータを確実に転送できるという、データセンターが提供する専用サーバーならではのメリットもある。

PowerEdge750専用サーバーは、インテルE7210チップセットを採用したIUの超薄

型ラックマウントサーバーで、OSとしてTurboLinuxをインストールしており、自由なカスタマイズと目的に合わせたサーバー設定が可能。メールウイルスチェック、セカンダリーDNS、IP追加、ポート監視、SSL取得など各種オプションサービスも豊富だ。ハードディスクがシングルの「Valueタイプ」(月額24,150円)と、RAIDの「Standardタイプ」(月額28,350円)が用意されており、目的に応じて選択できる。

一方、EXPRESS5800/MW専用サーバーは、NEC独自のカスタマイズを加えたLinuxをベースに、最小限の設定によりメールとウェブのサーバーを1台で構築可能だ。自由度とカスタマイズ性には制限があるものの、ウェブブラウザから簡単に操



URL: <http://www.kids-way.ne.jp/>

作できる管理機能を搭載しており、誰でも簡単に操作できるのが特徴。月額費用は1年契約が63,000円、2年契約が44,100円となっている。なお、同社では今回の専用サーバーレンタルについて、5月末まで「初期費無料キャンペーン」を展開中だ。

メール本文の“遺伝的特徴”を元に類推判別する方式を採用 ファーストサーバが、迷惑メール対策ソフトウェア 「Authority」をASPサービスとして提供開始

Rental Server

レンタルサーバー事業を展開するファーストサーバは、迷惑メール対策用のソフトウェアで世界的な実績を持つ米国Cloudmark社と提携し、同社の対策ソフト「Authority（オーソリティー）」をASPサービスとして提供する。

迷惑メール対策はビジネスの効率化を図るうえで重要な課題となっているが、これまではアドレスフィルターが一般的な方法だった。しかし、この方法では1つ1つ手作業で設定する必要があるうえ、設定したアドレス以外からの迷惑メールは除去できないという問題がある。

これに対し、Cloudmark社のAuthorityは、メール本文の遺伝的特徴を元に類推判別する方式を採用しており、予期しないアドレスからの迷惑メールも自動的に判定

できる。これを実現しているのが独自に開発した“spamDNA”技術だ。この技術は、あたかも科学者が遺伝子変異によって遺伝的疾患を予見するように、“spam遺伝子”と呼ばれる電子メール中の特異な変異を探し当て、その電子メールが迷惑メールであるか否かを判断する仕組み。

さらに、経験的情報を蓄積するデータベースを用いることで、Authorityの判定能力を高めるシステムも備えている。これは、Cloudmark社が運営するP2Pコミュニティ「SpamNet」（全世界で90万超のユーザー）で収集した情報をspamDNAに自動的に反映させることで、spamDNA自体を常に進化させるわけだ。

ファーストサーバでは、これまでもメールウイルス駆除サービスなどを提供している



URL <http://www.firstserver.ne.jp/>

が、今回のASPサービスについては、6月まで無料モニターにより顧客ニーズを調査し、7月以降、レンタルサーバーサービスの有料オプションサービスとして提供開始する。サービス提供価格は、1メールアカウントあたり月額210円（税込み）を予定している。

相互接続先のサービス利用者と「050」を用いた相互通話が可能に ぶららが、日本テレコム、フュージョン・コミュニケーションズと IP電話基盤の相互接続を開始

IP Phone

ぶららネットワークスは、IP電話基盤の相互接続先を拡大。新たに日本テレコム、フュージョン・コミュニケーションズのIP電話基盤との相互接続を開始したもので、これにより両社のIP電話サービス利用者と「050」番号を用いた相互通話が可能になった。

ぶららネットワークスは、インターネットプロバイダー「ぶらら」を運営しており、IP電話サービスに関しては、NTT東日本およびNTT西日本の提供するフレッツユーザー向けIP電話対応機器に対応した「ぶららフォン for フレッツ」（個人会員向け）と、「ビジネスぶららフォン for フレッツ」（法人会員向け）を提供している。両サービスでは、加入者同士や提携ISPのサービス利用者との間で無料通話が行えるほか、一般加

入電話とも格安料金による相互通話が可能。さらに、携帯電話各社との相互接続も行っており、IP電話と携帯電話間での相互発着信可を実現している。

異なるIP電話との相互通話についても、IP電話基盤を相互接続することにより実現できるため、ぶららでは、すでにNTT-MEおよびNTTコミュニケーションズと相互接続しているが、これに続いて日本テレコムおよびフュージョン・コミュニケーションズとも4月から相互接続を開始したものだ。

これにより、ぶららフォン for フレッツ、ビジネスぶららフォン for フレッツの利用者は、日本テレコム、フュージョン・コミュニケーションズ、および両社提携ISPの050番号を用いたIP電話サービス利用者と、一



URL <http://www.plala.or.jp/>

般加入電話網を介した相互通話が行えるようになった。ぶららフォン for フレッツ、ビジネスぶららフォン for フレッツの利用者からの通話料金は税込みで8.4円/3分。逆の場合は発信元のサービス提供事業者の設定する料金が適用される。

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp